

# 中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所  
地域教育支援スタッフ

no

# 2

チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

## 峡北地区・峡中地区 地域教育推進連絡協議会

### 開催しました

### 第1回 峡北地区 地域教育推進連絡協議会

第1回峡北地区地域教育推進連絡協議会が、6月20日(木)に北巨摩合同庁舎で開催されました。

内容は、全体会、全体会、研修会、協議会及び情報交換会と行われました。



【あいさつ・坂本 仁 新会長】

協議会において、本年度役員が次のように決定しました。

**会長 坂本 仁氏**  
(北杜市教育委員長)

**副会長 矢巻 令一氏**  
(韮崎市教育長)

**副会長 望月 はるみ氏**  
(北杜市保育協議会会長)

情報・意見交換会では、次のような活動報告等がありました。

◇こすもす教室「教育相談」の紹介  
(韮崎こすもす教室)

◇特別支援教育セミナー(学習支援と教育相談・事例研究・教材教具講習会)

(あけぼの支援学校)

◇甲陵中学・高等学校学園祭(紫蝶祭)  
日本ミツバチ講演会,SSH公开发表会&総習学習発表

(甲陵高等学校)

◇学社連携の取り組みについて  
(中北教育事務所 学校教育スタッフ)



研修会では、山梨県立大学 理事 五味武彦氏による講演が行われました。その要旨については、次頁を御覧ください。

### 峡中地区 地域教育推進連絡協議会

峡中地区地域教育推進連絡協議会が6月27日(木)に北巨摩合同庁舎で開催されました。

全体会、研修会、協議会及び情報交換会と行われました。

全体会では、本年度役員が次のように決定しました。

**会長 加々美 英 氏**  
 (甲斐市教育長)  
**副会長 牛 興 久代 氏**  
 (甲府市女性団体連絡協議会長)  
**副会長 波木井 淳一 氏**  
 (甲府市小中学校PTA連合会長)



**【あいさつ・加々美 英 新会長】**

情報交換会では、次のような情報や活動の紹介がありました。

- ◆健康日本21 (第2次)  
 ～次世代の健康, 栄養・食生活～について  
 「修学資金・就学支度資金のしおり」について  
 (中北保健所・保健福祉事務所)



- ◆第86回強行遠足への協力について  
 (甲府第一高等学校)
  - ◆甲斐市青少年健全育成活動について  
 (甲斐市青少年カウンセラー)
  - ◆不登校対策事業, 研究指定校等について  
 (中北教育事務所・学校教育スタッフ)
  - ◆「母と女性教職員の会」紹介と取組について  
 (紙上提案)  
 (母と女性教職員の会, 県・中巨摩)
  - ◆災害時の避難所としての「地域と学校の連携」  
 について (紙上提案)  
 (南アルプス市立豊小学校)
- 研修会では、峡北地区と同様に、山梨県立大理事・五味武彦氏による講演が行われました。

**講演**

## 「これからの学校教育の目指すもの

・地域社会の連携と課題・

山梨県立大学 理事 五味 武彦 氏

これからの学校教育の目指す方向について考えるうえで、まずは学校教育の意義を問い直すとともに、現在の学校教育の問題点、そして「教えることは教わること」という学びの原点に立ち返ります。次に地域社会活動としての青少年団体の分析から、その問題点と課題を探り、その解決策を提示します。最後に地域社会における幼保小中高大の連携、そして「学校」「家庭・PTA」「地域社会」の連携のあり方について考えます。

### ◆学校教育の意義とその問題点, そして生涯学習社会に生きるために

新明解国語辞典によると「学校」とは、一定の条件に合う人を対象として、何人かの教師が組織的方法でそれぞれの目的に応じた教育をすることで、と定義され、その意義(目的)は、①大人社会への入門 ②社会生活をよりよく営むため ③可能性を引き出すため ④生涯学習社会に生きるため ⑤教える者と教わる者のため、が考えられる。

「校」とは切り出した板を互い違いに並べて重



**【五味 武彦 山梨県立大理事】**

ね合わせ、平らな板をつくることを指し、転じてゆがまない素直な性格の子どもを育てる行為であり、放っておくとどこへ行くかわからぬ者を正しく導くことを意味する。そして社会生活をよりよく営むためには、礼儀作法を仕込む「躰」もあるが、正式に縫う前、縫い目を正しくするために、仮に糸で縫い押さえる「仕付け」もある。さまざまな個性や生き方が認められる今日、子どもの可能性を引き出すためには、社会のルールや常識などを伝えるのではなく、教師一人ひとりが自らの価値観を伝え、時には子どもの価値観と対峙することが必要と考える。また学校教育の問題点としては、①複雑な社会での不適応現象 ②学習量の増化 ③流行先行の兆し ④家庭教育との違い ⑤家庭教育への過度の期待 ⑥学生が郷土に戻らない状況等が挙げられる。

生涯学習人口が25%の欧米に対し、数%しかない日本の現状を踏まえ、生涯を通して学ぶことの大切さを教えることが望まれる。「教えることは教わること」であり、教師も児童・生徒、同僚、保護者、学校周辺の住民、地域の人々から学ぶことが重要である。

#### ◆教師を目指す者は…

教師を目指す者は、素質は環境(=教育)で変えることができるというダーウィンの捉え方で子どもに向き合うことが前提となる。親を含め、多くの人が関わりながら育てる動物園のような環境、自然界で同じ生き物が集まる習性、またキャベツのように外葉は取られても、結球していた葉が新たな外葉になり光合成を始めるなど自ら生きる習性、また一度切られると終わる松、切られても常に再生可能なクヌギの例など、生き物のさまざまな個性や特性はそのまま人間にも当てはまる。

#### ◆青少年団の変化

生涯学習の場として青少年団がある。各団体のここ約10年の加入者数(加入率)の変化を見ると、自治会や学校外の活動団体(ボーイスカウト、子どもクラブ、スポーツ少年団)の加入状況は年々減少傾向にあるのに対し、学校が関与する団体(緑の少年隊、青少年赤十字)については、加入者数は増加傾向にあり活動は安定、あるいは上向きになっている。尚、ガールスカウトは特に変化はなかった。自治会や学校外の活動団体の衰退は、県の機構改革による予算配分の影響も少なからずあろうが、それ以外のところで、その流れがなぜ起きたかということについては突き止める必要がある。

#### ◆昭和27年「穴切教育」の取り組み

甲府市立穴切小学校(現舞鶴小)は当時、文部省の指導のもと道徳教育の実験校であった。資料の中の「PTCA」という連絡協議会の名称のC

はチルドレン、Aはアッセンブリーを指す。戦後の混乱期で親たちは食うに困る生活をしており、学校給食もその辺りから始まった。つまり学校にすべてお任せという状態であった。子どもを何とか育て、自立させようと、連絡協議会(PTCA)を組織し、その下に今日の「子どもクラブ」である「町別児童会」があった。夏休みの計画・奉仕活動・ラジオ体操・レクリエーション・草取り等、子どもたちが主体となるさまざまな活動を、育成会の援助のもと行っていた。当時もそうであったが「子どもクラブ」の存在には大きな意味があり、復活を願っている。

#### ◆社会人の学習の場について

社会人の学習の場は大変豊富であり、ことぶき勸学院も少々予算を抑えられてはきたが、受講者は元気に学習をしている。他には大学コンソーシアム・山梨学院生涯学習センター・放送大学学習センター・山梨学びネット・キャンパスネット山梨等学習の場は揃っている。ただ大人の場合は、子どもを育てるための大人の学習というより、大人が自らの余暇を活かす、ということに依っており、もったいないと思う。

#### ◆自治会の取り組みと地域の課題

自治会の活動として、年間を通じて毎朝ラジオ体操を行っている。8年前は夏休み中の一週間のみであったが、始業日の前日まで延長したところ、却って子どもたちの参加が増えた。子どもたちは鍛えるとその覚悟は出てくるようだ。また自治会で土地を借り(年間6千円)、サツマイモの栽培を始めて今年で2年目になる。親子で参加する住民も多く、収穫後はパーベキューをしている。参加を呼びかけるうえで重要なのは、対象を忙しい小4から中学生ではなく、3歳児から幼稚園、小学校3年生くらいまでとすることである。その年代で体験すると、「三つ子の魂百まで」で、その記憶は将来も残る。そういったアイデアで、少しずつでも自治会を活性化させたい。

しかし現実には、①空き家の増加(子ども世代は離れて生活)②自治会の会員の減少(高齢化・少子化)③アパート住民の自治会への帰属意識不明④自治会長のなり手がいない⑤育成会が不活発⑥子育て世代の孤独・孤立(児童館の役割は大きい)⑦車社会の弊害⑧学校の関与が限定的(多忙化のため)といった問題、課題がある。

そこでその解決策としては、①大家族のすすめ(シェアハウスの発想とも近い)②濃密な近所づきあい(組長自身が回る)③自治会への積極的な参加の呼び掛け④集団指導体制での乗り越え⑤青年団を中心とした子どもクラブの組織化⑥公会堂で若い親が気軽に集う会⑦近所で買い物ができる環境作り⑧自治会と学校の定期的な連絡会(特に重要)が挙げられる。

## ◆幼保・小・中・高・大の連携

これまでさまざまな連携が叫ばれてきた。良いことであるのはいうまでもないが、私が最近関与したのは中高連携と高大連携である。例えば後者は、大学の立場からすると優秀な高校生をたくさん集めたい、となるがそれは高大連携の基本ではない。本当に学びたいものがその大学にあるかが重要である。

そもそも連携は、接続部分のみならず、その子どもを取り囲んでいる家庭環境や社会について話し合うことでアイデアが生まれてくる。小学校は独立しているが、小学校から中学校への移行は、試験がなければ、基本的にスムーズに進行する。しかし中学と高校の連携は、本来後期中等教育という括りにもかかわらず、高校は義務教育ではなく、また入試や学区といった特殊性がある。さらに大学の中には、高校の内容を理解してない生徒向けに外部講師が講座を実施するところもある。少なくとも中学から高校へ行く段階で、教育課程を全うしていることは中高連携の基本ではないかと思う。

甲府商科専門学校では、社会との接点を具体的に作ろうと、甲府の中心商店街でインターンシップを実施するとともに、毎年「七夕飾り」を学生全員と教職員とで、法被を着ながら行っている。特に後者のようなイベントについては、報道陣の協力を要請することも重要で、メディアを通して自分たちの活動が紹介されると、学生の活動への意欲は向上する。

幼保・小・中・高・大の連携については、学校教育というものが地域社会の上に成り立っているという視点で行うことが重要である。さらに子どもの発達段階を見通すことと、学校間の連携の関与の2つが大切である。もちろん地域の特殊性や利点もあるのでそれらも生かして欲しいと思う。

大学は数年前から、「地域貢献」を重視する立

場が変わってきた。山梨県立大学も、文部科学省による「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に応募している。その事業は「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する。」というもので、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。

## ◆これからの教育は…

小学校、中学校、高校と上がっていく階段は、らせん階段である。そして大人が子どもの手を引いて教えるのではなく、大人も子どももそれぞれの立場で学習しながら成長することに意味がある。つまり教育は大人が成長していく過程でもある。「子どもを育てながら、親も育てていく」を実社会、例えば育成会を通して実践してみるのはいかがであろうか。

本日参加した教育団体の構成はさまざまであり、個々の団体にはその役割があるが、それぞれが遠慮している部分もあるかと思う。全体を、学校関係・地域関係・家庭関係という括りでまとめることも可能かと思うが、できたら学校、家庭・PTAの役割でまとめることが期待される。さらに地域社会（自治会）を加えた、この3者が相まってこの社会はうまくいく。人口減少期を迎え、体制の維持が困難になりつつある今を新たな出発点とすることで、大事な要素も見えてくるかもしれない。

キリスト教があつての欧米社会とは異なり、日本社会は学校が中心であった。江戸時代の寺子屋や明治維新の教育システムに始まる学校教育の果してきた役割は大きい。学校を中心として、社会が回り、拡がり、上昇することが、今以上に必要となると思う。

# 平成25年度 山梨ことぶき勸学院 入学式 ≡ 第1回ふれあい行事《講演会》≡

山梨ことぶき勸学院の入学式が4月17日、甲府市のコラニー文化ホール（県民文化ホール）で行われました。251名の2年生に迎えられ、初々しい178名の1年生が瀧田武彦学院長（教育長）より入学を許可されました。

瀧田学院長は式辞で、「生涯学習の最高学府として26年、11,000人を超える卒業生を輩出してきた。これまでの伝統を受け継ぎ、さらに今年度から新たに、仲間づくりのための「拠点校方式」、情報収集の技能習得のきっかけにするための「ネット講座」を導入した。勸学院で学ぶ楽しさを、若い世代に、地域の活動をとおして伝えるとともに、国民文化祭開催の今年、全国の皆さ



んと交流する中で、発信してほしい。生き生きとした学びの日が続けられることを願ってる。」と述べられました。

入学生代表の保坂修一さんは「伝統ある勸学院に入学できることは大変名誉なことである。地域、年齢は違うが、同じ勸学院生として向学心・向上

心で交流を深め、努力して得たことを人生の糧として地域社会に役立てていきたい。また新生勸学院の礎を築いていき、全国に発信していきたい。」と力強い誓いの言葉を述べられました。

## 講演会 「私の登った海外の山々」 登山家 渡邊玉枝氏

### 【講演内容】

世界の数々の名峰の登頂に成功し、平成24年5月には、エベレスト(8848m)へ73歳(女性最高齢)で登頂に成功した富士河口湖町在住の登山家渡邊玉枝さんから「私の登った海外の山々」と題した講演が行われました。エベレストへの、想像を絶する過酷な登頂の様子を、スライドを用いながら紹介されました。後半は会場の参加者や勸学院生からもさまざまな質問が飛び出しました。普段のトレーニングについての質問には、「特別なことはしていない。農作業を、機械に頼らず行うとともに、月に数回は近くの山を登っている。」と述べられ、日常生活の大切さを再認識するよい機会となりました。心のこもった素晴らしい講演内容で「歩き始めれば誰とでも友だちにな

れる」「山の本当の姿は、色々なルートを登って初めて分かる」という言葉は、勸学院のスタートに当たっての良いはなむけの言葉になりました。



《登山家 渡邊玉枝氏》

## 平成25年度 南アルプス市 ジュニアリーダー養成研修会 4月28日(日) 南アルプス市 甲西農村改善センター

南アルプス市内の中学生を対象にしたジュニアリーダー研修会が開催されました。南アルプス市教育委員会は、平成23年・24年に市内の小中学生対象のジュニアリーダー研修会を八ヶ岳少年自然の家で実施している。その参加者が中学生になったのを契機に、リーダーとしての資質の向上を図り、後進の指導にあたるジュニアリーダーの育成を目指して研修会が行われました。

参加者は26名、年間12回の講座を開催し、8月のキャンプでは、小学生のリーダーとして活躍できることを目標に取り組んでいます。研修の指導は山梨県レクリエーション協会の指導者が担当し、各回ごとにテーマを決め、リーダーとしての力量を高め、指導にあたるよう資質の向上を目指しています。

第1回は「遊びから体づくり！(バランスの良い発達を目指して)」をテーマに、県レクリエーション協会専務理事の塩澤一夫さんより、研修会の目的・ジュニアリーダーとは何かという課題について講義がありました。その後実技に入り「バ



ランスの良い発達」のために“歩き”“体操”と進み、体験活動では重要となる人間関係づくりに向けた“アイスブレイキング”をゲームを通して体験しました。また「遊びから体づくり」ということで、スポンジテニス・新聞紙で作る手作りフリスビーなどで汗を流し交流を深めました。



まとめでは各人に渡された“ノート”にそれぞれのゲーム・活動の振り返りを感想とともに記入し、指導する立場になった時に活用できるネタ作りを行いました。感想発表では「走るのが楽しかった」「フリスビーの作り方が分かったので、ドッジビーをしてみたい」などの感想や意見が出ました。

次回6月23日には“カートンドッグに挑戦”ということで、食事作りに取り組みました。今後も月1回のペースで研修が予定されています。

～H25 社会教育指導者研修会～

## 公民館活動事例の紹介

< 檜形中央公民館 小笠原・山寺地区分館 / 高根町西原分館の事例より >

**6月11日県青少年センターで開催された社会教育指導者研修会において、中北管内については、南アルプス市と北杜市の2つの公民館の取り組みが紹介されました。**

南アルプス市 檜形中央公民館 小笠原・山寺地区分館の取り組みについて、前公民館主事の土屋たまよ氏から、「公民館を地域文化の情報発信基地として生涯学習の振興と推進を図る」と題して実践発表がありました。

3.11の東北大震災の教訓から「出会いを力に、ふれあいを喜びに、絆を大切に」をテーマに開催された3つの取り組み、1. 分館祭り（地域の皆さんの活動発表） 2. ふるさとふれあい講座（故郷を巡り、その歴史を知る講座） 3. 小笠原流礼法講座（「相手を大切に思う心」を表す作法を学ぶ）が紹介されました。

北杜市高根町西原分館の取り組みについては、北杜市教育委員会生涯学習課の高柳博基氏より、「北杜市の公民館活動～高根町西原分館の事例～」と題した発表がありました。

「花いっぱい運動」の活動は、「山梨花の町づくりコンクール」をはじめ数々の賞に輝くとともに、「地域の伝統文化の伝承」として、そば栽培による地域おこしの実践例が紹介されました。県単独事業「特色の邑づくり事業」により、そば処「北甲斐亭」を開業し、地元の高齢者の豊富な知識と経験を、そば打ち体験道場を通して地域に還元する取り組みでした。



【前檜形中央公民館主事 土屋たまよ氏】



【北杜市教育委員会生涯学習課 高柳博基氏】

平成25年度『中北.com』No.2

編集・発行  
中北教育事務所 地域教育支援担当  
飯窪 阿部 今福

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4  
電話 0551-23-3046  
ファックス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

アドレスは次のとおりです。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>

